

今の大川は、応永の大洪水（応永二十六年「一四一九」）のときから、この白髭の水までの一七七年の間は、南会津地方より流れてきて、本郷村（現在の会津本郷町）の岩崎山の麓から西に、橋爪村よりは北西に、更に安田村から北に流れて、坂下村（現在の会津坂下町）を経て日橋川と合流して阿賀川となっていたんだと。

ところが、この白髭の水によって、応永二十六年以前の昔の河道に戻り、本郷村より北に流れ、蟹川村、佐野村を通る現在の大川となったと言われているんだと。

川の流れが変わったために、岩崎山の麓から橋爪村までの旧河川敷は陸地となり、川幅が狭くなった川の流域はもとより陸地となった旧河川敷にはたくさんの新田が開発され、多くの集落ができたと言われているんだと。